

★会合やイベント

第 28 回天文教育研究会・2014 年天文教育普及研究会年会のご案内

(第 4 報)

◆日 程：2014 年 8 月 10 日(日)13 時 ～ 12 日(火)15 時

◆会 場：東京学芸大学 南講義棟 4 階 S410 ほか

〒184-8501 小金井市貫井北町 4-1-1

URL：<http://www.u-gakugei.ac.jp/>

<http://www.u-gakugei.ac.jp/access/>

※JR 中央線/西武国分寺線・多摩湖線 国分寺駅より徒歩約 20 分

または

JR 中央線 武蔵小金井駅より京王バス小平団地行き〔5 番バス停〕乗車約 10 分

「学芸大正門」バス停下車、徒歩約 3 分

◆主 催：天文教育普及研究会

◆後 援：東京都教育委員会、日本天文学会、日本プラネタリウム協議会、

日本公開天文台協会、高校生天体観測ネットワーク、(以下、後援予定)

日本理科教育学会、日本地学教育学会、日本惑星科学会、東亜天文学会、

全国科学博物館協議会、PAONET

◆対 象：学校教育機関、社会教育機関、一般の天文普及活動などで天文の教育・普及に携わっている人、あるいは関心のある人、および天文教育普及研究会会員

◆趣 旨：天文教育の振興および天文教育普及活動の推進

◆メインテーマ：「天文教育普及活動の次の一步を探る」

宇宙と人は、どのように関わるのが望ましいのでしょうか。これまで積み上げられてきた天文学の知は、社会にどのように吸収されていくのがよいのでしょうか。その上で、天文教育普及活動は何を目指し、次の一步は何なのか。今回の天文教育研究会では、天文教育普及活動の根源と将来を考えます。

系統的な知識と考え方を身につけるための学校教育、高まる生涯学習への要望に応える社会教育、最先端の研究成果を伝える研究機関の広報・普及活動、そして仕事から離れて地域

や社会の中で自発的に行われる活動など、天文教育普及活動は様々な場で展開されています。そしてその狙いもさまざまでしょう。しかし、日々の業務に追われて全体像を見失いがち、という場合も少なくないかもしれません。別の場で活躍する仲間とともに普段より一段高い位置から活動の全体像を議論し見つめなおすことで、大きな目標とそこに至る道筋を再確認することを今回の研究会のゴールとします。もちろん目標は一つとは限りません。それぞれの立場で目指す所を共有し連携を図ることで、多様な天文教育普及活動全体が大きく一步前進することを目指します。

天文教育普及研究会でも、2009 年に「当会の今後 20 年を考える委員会（20 年委員会）」が組織され、その目指すべき方向・理念と役割が提示されました。その中では協力者や外部団体との連携の強化、学校教育や一般普及分野の活動を活発にするための組織作りなどの提言が行われています。「社会の中での天文教育普及活動」という大きな枠組みの中でこの提言をもう一度見つめなおし、具体的な取り組みにつなげるための実現可能な戦略の構築を行います。

◆プログラム：

第 1 日：8 月 10 日(日)

- 12:00 - 受付
- 13:00 - 13:15 開会行事
- 13:15 - 13:30 テーマセッションの趣旨説明 [実行委員会]
- 13:30 - 14:00 レビュー講演：嶺重慎氏（京都大学教授、本会前会長）
- 14:00 - 15:00 テーマに関する発表
- 15:15 - 16:15 招待講演：海部宣男氏（国際天文学連合会長、国立天文台名誉教授）
- 16:15 - 18:00 テーマに関する分科会
(18:30～19:30 新旧合同運営委員会)

第 2 日：8 月 11 日(月)

- 9:30 - 11:15 一般発表
- 11:15 - 12:50 ポスターセッション（昼休憩含む）
- 12:50 - 14:15 テーマに関する分科会
- 14:30 - 16:00 次期学習指導要領に関する特別セッション
- 16:00 - 17:30 総会
- 18:00 - 20:00 懇親会（第一むさしのホール）

第 3 日：8 月 12 日(火)

- 9:30 - 10:30 一般発表
- 10:40 - 12:00 一般発表
- 12:00 - 13:00 昼食
- 13:00 - 14:45 テーマに関するまとめの討論
- 14:45 - 15:00 閉会行事

※発表申し込みの状況によって変更する可能性があります。

◆レビュー講演・招待講演について：

今回の研究会では、天文教育・普及活動に深く関わっておられるお二方に講演をお引き受けいただきました。海部宣男氏には国際天文学連合（IAU）会長としての視点から、現在 IAU が推進している"Astronomy for Development" の取り組みと、それを通じた「科学の入り口としての天文教育普及活動の意義」、また当会に限らず日本全体の天文教育・普及活動への期待について講演いただきます。また当会の 20 年委員会委員長であった嶺重慎氏には、20 年委員会の提言を踏まえた天文教育・普及活動について、またユニバーサルデザイン天文教育や支部会等で発表される草の根的活動など、最近の天文教育・普及の現場をレビューしていただきます。

◆テーマに関する分科会について：

今回の研究会ではご参加いただける皆様からの発表に加え、メインテーマに掲げた「次の一歩」を具体的に踏み出すための議論の時間をしっかりと確保しました。1 日目の分科会では、実行委員会内での議論で上がってきた下記の 6 テーマについて、皆さんの希望のもとに小グループに分けて議論します。また 2 日目の分科会では、1 日目の各テーマでの議論を踏まえて、学校教育・社会教育・一般普及・および学生の立場に分かれて具体的な「次の一歩」につながる方策を議論します。

分科会議論テーマ**◎「アマチュアと天文教育普及」**

アマチュアとは、自由度の高い状態を示す言葉である。天文学の研究に関わることも可能である。また、学校や施設の観望会に指導者として参加したり、企画することもできる。そして、自分の持つ観測機器を磨いていてもいいし、美しい天体画像をとことん突き詰めても構わない。日食を見るために海外まで出かけることも、自由にできるのだ。分科会では、「アマチュアとはこういうもの、こうあるべき」という狭い議論に陥るのではなく、アマチュアであることの強みを活かすことで、本会が目的とする天文の教育・普及にどのような可能性が拓けるのかを考えてみたい。

キーワード：アマチュア、愛好者、天文同好会、観望会、趣味、教育・普及

◎「グローバル化時代の天文教育普及」

国境を越えた人や情報の行き来が盛んになった現代は、誰もが互いに影響し合うことが可能になったグローバルな時代である。私たちは海外の情報に簡単に接することができるし、その逆もまた然りである。そのような状況を背景にした時、日本で培われてきた天文教育普及の文化は、世界に対してどのような貢献ができるのか。さまざまな可能性について議論する。

キーワード：国際化、グローバル社会、国際天文学連合、君もガリレオ、世界天文年

◎ 「エリート天文教育」の功罪

近年、Astro-HS や天文学会のジュニアセッションは盛況であるが、そこではプロの研究者の支援を受けて行われるような高度な発表も多い。文科省や JST などが進める SSH や SPP などがそれらの研究を支援する一方で、そういった支援を受けられる中高生は限られるという問題もある。このような「エリート天文教育」の功罪について意見交換し、これからの天文教育普及における存在意義について協議する。

キーワード：科学技術系人材の育成、課題研究、体験学習、大学・研究機関等との連携、学校間格差

◎ 「天文教育普及を支える「数字」とは？」

天文教育普及の意義を語る上で、その根拠となる数字を挙げることは、一定の説得力を持つ。天文教育普及活動の全体像を掴む上で大事な「数字」にはどのようなものがあるのだろうか。コミュニティとして、それらの数字をどのように調べ、蓄積していくべきか、その効用の良し悪しも含め議論する。

キーワード：活動数、従事者数、来館者数、参加者数、経済価値

◎ 「施設だからできること、施設に期待したいこと」

プラネタリウムや科学館・公開天文台は、学習目的の学校団体からレジャー目的の来場者まで層が広く、施設によりその主要対象も異なる。天文教育・普及において、こうした施設だからこそできること、施設に期待したいことはなんだろうか。それらを実現していく上で、現状ではどんな課題があり、コミュニティとしてどうやって乗り越えられるのだろうか。さまざまな立場から改めて意見交換を行う。

キーワード：学習投影、指定管理者制度、教育とエンターテインメント

◎ 「高齢化社会と天文教育普及」

シニア世代は、旺盛な知識欲において生涯教育の重要なターゲット層であり、同時に、豊富な経験から普及における人的資源にもなり得る。他国に先駆け高齢化社会に突入した日本だからこそできる、新しい天文教育普及の形はいったいなのか。若い世代との連携をはじめ、高齢化社会における天文教育の可能性を探る。

キーワード：シニア世代、人的資源、次世代への影響、世代を超えた取り組み

◆参加費：一 般 1,500 円（一日だけの場合は 1,000 円）

学 生 500 円

非会員 +1,000 円（集録代として、希望者のみ）

高校生以下 無料

◆宿 泊：各自でご予約をお願いします。

東京学芸大学の最寄駅、JR 中央線武蔵小金井駅および、JR 中央線/西武国分寺線・多摩湖線国分寺駅です。これら最寄駅と近隣の三鷹駅、武蔵境駅、立川駅周辺を宿泊場所の参考にしてください。

◆情報交換会（懇親会）：

日 時：8月11日(月) 18時～20時

会 場：東京学芸大学 第一むさしのホール

参加費：4,000円（一般）、2,000円（学生）

◆参加申し込み：参加申込書をご参照ください。

◆会場アルバイト/旅費補助：

現在のところ、参加者・発表者への旅費補助は予定していませんが、学生（学部生、大学院生等）を対象に、会場でのアルバイトをお願いしたいと思っています。旅費補助の代わりとして、ふるってご応募ください。（予定人数に達した場合は、アルバイト募集は終了いたします。）

◆問い合わせ：

- ・ 電子メール：tenkyo2014「あっと」tenkyo.net（実行委員会）
（「あっと」を@に換えてください。）
- ・ 電 話：090-8088-0158（実行委員会事務局）

<年会実行委員>

平松正顕（委員長）、縣 秀彦、飯塚礼子、伊東昌市、斎藤 泉、齋藤正晴、坂江隆志、篠原秀雄、鈴木文二、高梨直紘、高島規子、塚田 健、友田和美、直井雅文、永井智哉、西浦慎悟、根岸 潔、波田野聡美、平井 明、松本直記、水野孝雄

<年会担当幹事>

直井雅文

＜ 参 加 申 込 書 ＞

下記の申込フォームに必要事項をご記入の上、末尾記載の申込先までお申し込みください。【 】内は不要な部分を消去してください。
(お申し込みは、できるだけメールでお願いします。)

■申し込み締切

7 月 20 日 (日) : 参加申込 (発表あり)

8 月 5 日 (火) : 参加申込 (参加のみ)

＊情報交換会 (懇親会) 参加の場合は、7 月 30 日(水) までにお申し込みください。

■申し込み先

- ・ 電子メール : tenkyo2014「あっと」tenkyo.net (大会専用)
(「あっと」を@に換えてください。)

- ・ 郵送 : 〒273-0043 船橋市二子町562-2-207

飯塚礼子 宛

※できるだけ電子メールでのお申し込みをお願いします。

第 28 回天文教育研究会 参加申込書

氏 名 : 【一般・学生】【会員・非会員】

ふりがな :

所 属 :

1. 連絡先 : 【自宅・所属先】

住 所 : 〒

:

電 話 :

FAX :

メール :

今後の連絡方法 : 【郵便・メール】

2. 参加日程

- ・ 参加予定日 : 【 8 月 10 日 (日) ・ 8 月 11 日 (月) ・ 8 月 12 日 (火) 】

- ・ 情報交換会 (8/11 夜) : 【参加・不参加】

※昼食については学生生協の食堂が利用できます。

また、徒歩数分の範囲内にコンビニ (セブンイレブン・ローソン) があります。

※運営委員会 (8/10) の夕食については別に案内します。

3. 研究発表（要旨は 100 字以内をお願いします）

- ・口頭発表【あり・なし】（口頭発表は一人 1 件までをお願いします）
（口頭発表希望者が多数の場合、
ポスター発表への変更をお願いする場合があります）

題目：

趣旨：

プロジェクター：

【パソコン持参・USB メモリなどを持参・使用しない】

その他使用機材：（ ）

- ・ポスター発表【あり・なし】

題目：

趣旨：

※ポスターボードは、一人あたり 90cm(横)×180cm(縦)程度を予定しています。

4. 派遣依頼（依頼状は実行委員長名で作成します）：【必要・不要】

必要な場合：（ 月 日までに 宛に）

5. 会場アルバイトの希望（学生に限ります）：【あり ・ なし】

6. 自家用車での来場希望：【あり ・ なし】

（駐車スペースの都合でご希望に添えない場合もございます。できるだけ公共交通機関でお越しください。）

7. その他、ご意見、ご要望があれば、ご記入ください。